

知床世界自然遺産地域科学委員会地元説明会

平成21年7月22、23日

知床世界自然遺産地域科学委員会 における最近の議論について

環境省釧路自然環境事務所
林野庁北海道森林管理局
北海道

知床世界自然遺産の歩み

- 1993年 屋久島、白神山地の世界遺産登録
- 1999年 斜里・羅臼両町長が国・道に遺産登録を要請
- 2003年 5月 世界自然遺産候補地検討会が3候補地を選定
10月 知床の推薦内定
知床世界自然遺産候補地地域連絡会議設置
12月 知床世界自然遺産地域候補地管理計画(案)策定
- 2004年 1月 知床世界自然遺産候補地管理計画を決定
政府が知床を世界遺産委員会へ推薦
7月 審査機関の現地調査
11月 質問に対する政府回答
- 2005年 3月 2回目の政府回答
7月14日 世界自然遺産登録決定(南ア・ダーバン)

世界自然遺産の登録基準

- | | | |
|----|-------|------------------------|
| 7 | 自然景観 | ひととき優れた自然美 |
| 8 | 地形・地質 | 過去の生命の歴史や地球の歴史の証拠 |
| 9 | 生態系 | 進行中の生物進化や生物群集の見本 |
| 10 | 生物多様性 | 絶滅危惧種、生物多様性保全上最も重要な生息地 |

登録遺産に類似のものがないこと
法的保護措置があること

< UNESCOの世界遺産委員会による厳格な審査 >

世界自然遺産登録後の取組

- エゾシカ保護管理計画の策定(H18.10)
 - ・増えすぎたエゾシカによる植生への影響の把握と対策
- 海域管理計画の策定(H19.12)
 - ・海洋生態系の保全と持続的漁業の両立
 - ・法規制と自主ルール・自主的管理による管理
- 河川工作物の改良
 - ・サケ科魚類の遡上に河川工作物が与える影響評価と河川工作物の改良・モニタリング
- 利用の適正化
 - ・利用適正化基本計画、利用の心得の策定
- 拠点施設の整備
 - ・知床世界遺産センター、ルサFH、森林ボランティア施設等

世界遺産登録後の世界遺産委員会とのやり取り

世界遺産センター/IUCN現地視察(H20.2)

- 登録後の取組を説明
 - ・海域管理計画、河川工作物改良、エゾシカの適正管理、利用の適正化等
- 地域との協働と科学的知見の活用について高く評価
- 調査団は、知床世界自然遺産地域の保全状況に関する調査報告書を作成し、世界遺産委員会に提出。
この中には、今後の助言として17項目の勧告が盛り込まれた。

第32回世界遺産委員会での決議(H20.7)

- 遺産登録時の**勧告に効果的に対応していることを賞賛。**
- 世界遺産センター等の報告書を踏まえ、特に**9項目について重点的に取り組むよう要請**

第32回世界遺産委員会での要請

特別敏感海域(PSSA)の指定について検討すること。

海域管理計画を遺産地域全体の管理計画に統合し、指標、役割と責任分担を明確にし、実施のためのスケジュールを詳細に示すこと

管理計画を見直し、海域やサケ科魚類、シカ、エコツアーリズムと適正利用を含む全ての個別計画を統合した形で完成させること

漁業資源も含む海洋の生物多様性の持続的生産力を確保するため、禁漁区を含めた地域に即した保全地域の特定や指定、取組を検討すること

スケトウダラの持続可能でない漁獲について、長期的な解決策を見つけるためと、科学的情報の定期的な交換のため、ロシア連邦との間での協力を継続すること

サケの自由な移動を推進する対策を継続・推進させるとともに、特にルシャ川において、工作物の改良を優先して継続、推進し、サケの個体群への影響をモニターすること

シカによる自然植生への食圧の影響の受容できる限界を定めるための指標を開発し、抑制措置が遺産地域のシカ個体群や生物多様性、生態系に与える影響をモニターすること

統合的なエコツアーリズム戦略を策定し、知床での観光・経済的開発の地域戦略との間に密接な連携・統合を確保すること

(1)モニタリングプログラムと(2)知床世界遺産の価値に対する気候変動の影響を最小限に留めるための順応的管理戦略を含んだ知床の「気候変動戦略」を開発すること

知床半島エゾシカ保護管理計画

■目的

エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響を軽減する。

■管理手法

1. 防御的手法

保護柵や樹皮保護ネットを利用した植生の保護

2. 越冬環境改変

道路法面や農林業跡地における植栽地を対象とし、環境を改変し、エゾシカの利用を制限することで越冬地の環境収容力を削減する。

3. 個体数調整

エゾシカの捕獲による個体数の調整。当面は、個体数調整によりエゾシカの密度操作の実験的实施と植生回復の検証を行い管理行為へ結果を反映させる密度操作実験として実施。

■ 管理手法

✓ 遺産地域A地区

知床岬地区および幌別・岩尾別台地地区を除いた遺産地域の核心地域

エゾシカ越冬数の推移を把握する。また、植生のモニタリングを行う。
希少な在来植物や群落に留意し、必要に応じて防御的手法で保全する。

✓ 特定管理地区

知床岬地区(斜里側のホロモイ湾北部以北、羅臼側のカブト岩以北)

防御的手法で植生を保護する
実施可能性を検討した後に密度操作実験を実施する。

✓ 遺産地域B地区

遺産地域の緩衝地域及び幌別・岩尾別台地

✓ 隣接地区

遺産地域を除く両町の一部。

防御的手法で植生を保護する
岩尾別地区及びブルサ - 相泊地区において、実施可能性を検討した後に密度操作実験を実施する。
越冬環境を改変する。

世界自然遺産地域

■ 核心地域

■ 緩衝地域

■ 国指定知床鳥獣保護区

特定管理地区

遺産地域A地区 (特定管理地域・飛び地を除く)

遺産地域B地区 (飛び地を含む)

核心地域飛び地

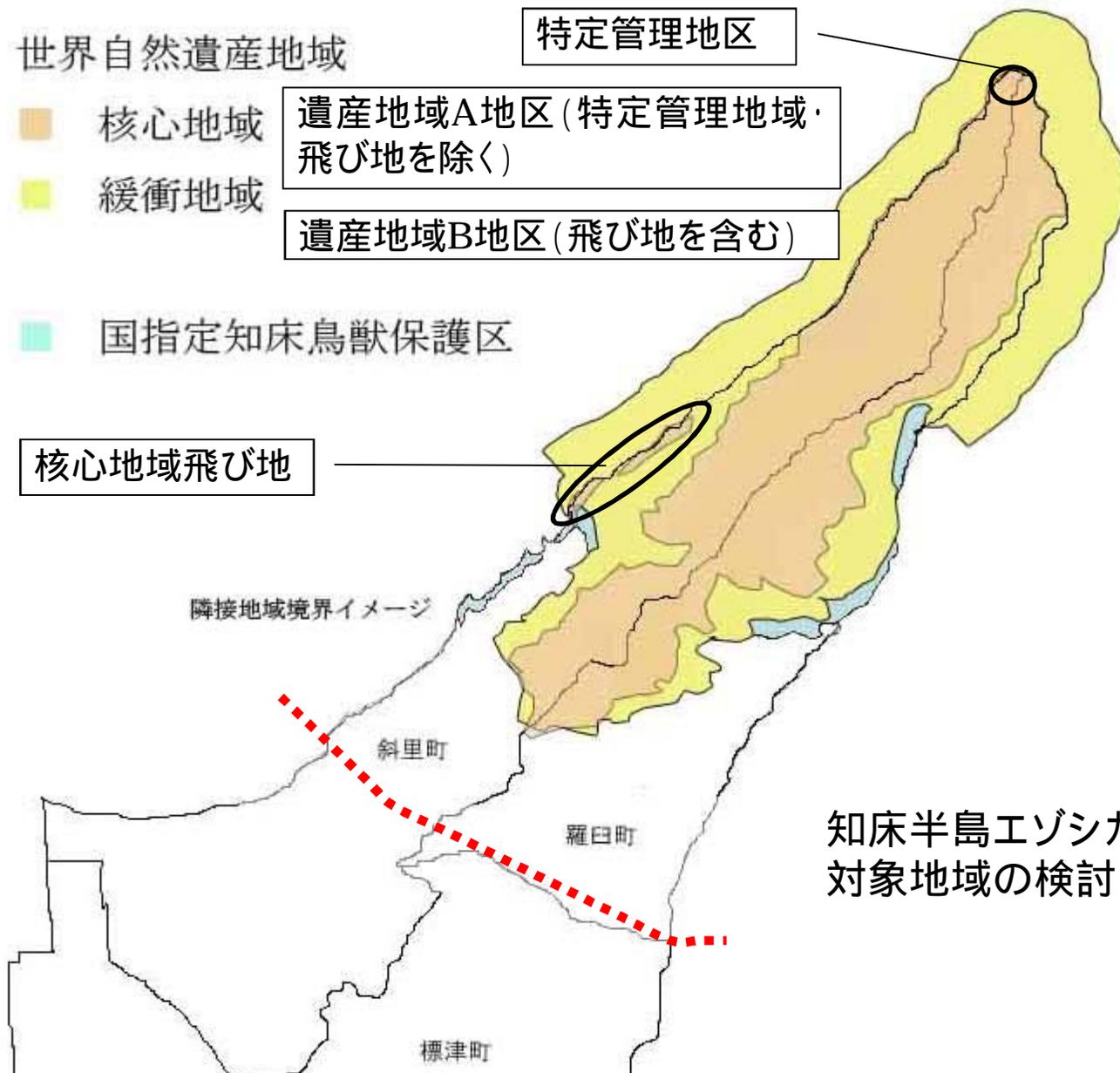
隣接地域境界イメージ

斜里町

羅臼町

標津町

知床半島エゾシカ保護管理計画
対象地域の検討イメージ



知床世界自然遺産地域 多利用型統合的海域管理計画

■目的

遺産地域内における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業の営みの両立

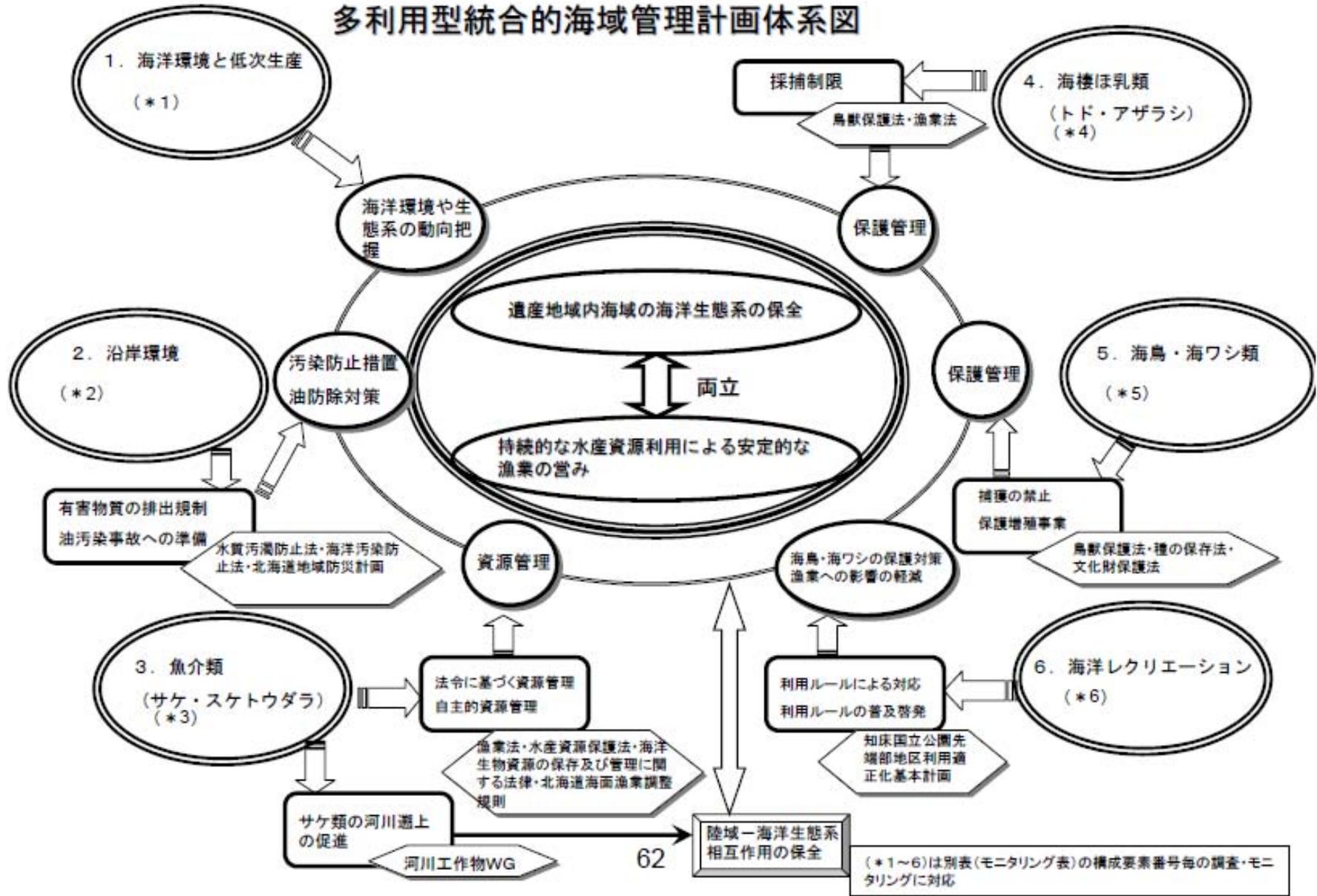
■基本方針

✓海洋環境や海洋生態系の保全及び漁業に関する法規制、並びに海洋レクリエーションに関する自主的ルール及び漁業に関する漁業者の自主的管理を基調とする

✓海洋生態系の保全の措置、主要な水産資源の維持の方策及びそれらのモニタリング手法並びに海洋レクリエーションのあり方を明らかにし、それらに基づき適切な管理を推進する

知床世界自然遺産地域

多利用型統合的・海域管理計画体系図



(*1~6)は別表(モニタリング表)の構成要素番号毎の調査・モニタリングに対応

河川工作物の改良とモニタリング

河川工作物WG (H17 ~ H19年度)
13基を改良が適当と評価。

写真: イワウベツ川

・床固工 改良前



改良後



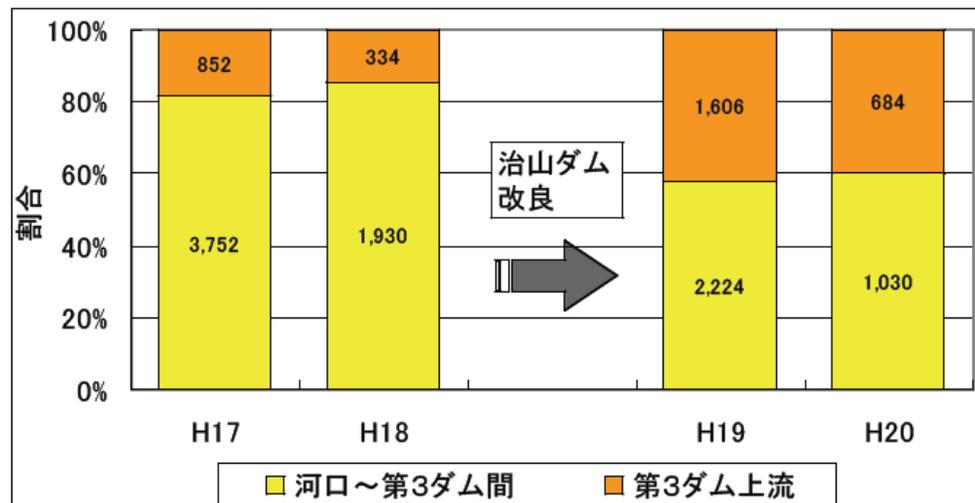
各工作物を管理する行政
機関による改良

図: ルシャ川



モニタリングによる改良効果の検証

遡上匹数 (推定) の変化 (カラフトマス)



長期モニタリング



例

- A. エゾシカの個体数をモニタリングする
- B. 個体数が今後増えていくと予測する
- C. 植生に悪影響が出る恐れがあると評価する
- D. 個体数を減らして、悪影響を軽減する対策をとる

目的

知床の総合評価



順応的、統合的管理

- ✓ 各種管理計画の見直し
- ✓ 各種活動の改善

モニタリングの進め方

- モニタリング項目選定(2008年度まで)
- 試行的に実施(2009～2011年度)
- 長期モニタリング体制に移行(2012年度～)

5年毎に内容・体制
の見直し

モニタリングの評価項目の設定

- ✓特異な生態系が維持されていること
- ✓海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること
- ✓遺産登録時の生物多様性が維持されていること
- ✓遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること
- ✓河川工作物による影響が軽減されるなど、サケ科魚類の再生産が十分に保証されている河川生態系が維持されていること
- ✓エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと
- ✓レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること
- ✓気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること

知床世界自然遺産地域管理計画(案)の検討経緯

知床世界自然遺産地域科学委員会と同地域連絡会議において、平行して検討。

- H19.9 候補地管理計画の見直し方針の検討
(H20.2 世界遺産センター/IUCNの現地調査)
- H20.2 遺産地域管理計画(骨子案)検討
(H20.7 第32回世界遺産委員会での要請)
- H20.11 遺産地域管理計画(素案)検討
- H21.2 遺産地域管理計画(案)検討
- H21.5 遺産地域管理計画(案)についてパブリックコメント開始
(5/29~6/29)
- H21.7 パブコメ結果を踏まえた管理計画(案)の修正作業
- H21夏 環境省、林野庁、文化庁、北海道において決定(予定)

遺産地域計画の位置づけ

- 知床世界自然遺産地域の自然環境を将来にわたり適正に保全・管理していくための最も基本的な計画

知床世界自然遺産候補地管理計画からの主な変更事項

- 管理の基本方針の追加
 - ✓「地域との連携・協働(知床世界自然遺産地域連絡会議)」
 - ✓「順応的管理(知床世界自然遺産地域科学委員会)」
 - ✓「広域的な視点による管理(気候変動、日露の協力)」
- エゾシカ保護管理計画・海域管理計画の位置づけ
- 「海域と陸域と相互関係の保全」の追加
- 自然の適正な利用に係る部分の変更
- モニタリングに係る議論の反映
- 気候変動への影響への対応の追加
- 情報の共有と普及啓発の追加
- 計画実施の点検の追加

管理計画(案)の構成

管理の目的〔2〕

遺産地域の概要〔3〕

(1)位置等、(2)総説、(3)自然環境、(4)社会環境、(5)保護制度等

管理の基本方針〔4〕

(1)管理の目標 世界遺産のクライテリア「生態系」「生物多様性」の維持

(2)管理に必要な視点

ア 地域例の連携・協働、 イ 順応的管理、 ウ 陸域と海域の統合的管理

エ 地域区分による管理、 オ 一次産業との両立、

カ レクリエーション利用との両立、 キ 広域的な視点による管理

管理の方策〔5〕

(1)陸上生態系及び自然景観の保全、

(2)海域の保全

(3)海域と陸域の相互関係の保全、

(4)自然の適正な利用

(5)関係行政機関及び地元自治体の体制、

(6)保全・管理事業の実施

(7)調査研究・モニタリング、

(8)気候変動の影響への対応

(9)年次報告書の作成、

(10)情報の共有と普及啓発

計画の実施その他の事項〔6〕

(1)計画の実施等、 (2)地元自治体の取組、 (3)資金

科学委員会の今後の主なトピックス

■モニタリング計画の作成

2012年からの長期モニタリングの実施に向けた計画の検討を行う。

■年次報告書の作成

遺産地域とその周辺地域の自然環境とそれを取りまく社会環境についての最新の状況や、関係行政機関、地元自治体、関係団体、専門家等による遺産地域に関する取組等を毎年とりまとめる。

■今後のエゾシカ密度操作実験

知床岬での新たな手法の試行について検討するとともに、次期候補地における課題と解決策についても検討する。

■気候変動への対応

気候変動への適応戦略の検討を行う。